



防水型デジタル温度計

(専用プリンタ出力付)

MODEL SK-1260

取扱説明書

SATO KEIRYOKI MFG.CO.,LTD.

— はじめに —

このたびは防水型デジタル温度計 SK-1260 をお買い上げいただきありがとうございます。

- この商品は、温度を計るものです。それ以外のご使用はしないでください。
- ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みにになり、大切に保存してください。

概要

本器はセンサとしてサーミスタプローブ（専用）または熱電対（K）プローブ（専用）を接続できる防水型デジタル温度計です。測定した温度は本体に記録することが可能であり、さらに専用プリンタ（オプション）を接続することによって測定結果を印字することができます。

特長

● 防水機能

本体・プローブ部接続状態で JIS C 0920「電気器具の防水試験及び固定物の侵入に対する保護等級」における防水保護等級 IPX4 に準拠した防水構造になっております。ぬれた手で本体を触ったり、水滴がかかっても支障はありません。

● プリンタ出力付き

設定により、測定温度を手動及び自動記録ができます。

専用のプリンタに出力することができ、本体に記録した測定データを印字出力することができます。

● 通常記録（マニュアル記録）・自動記録（オート記録）

本体の設定によりマニュアル記録とオート記録の設定ができます。詳しくは本説明書「記録モードの説明」をお読みください。

● 最高・最低温度のアラーム設定

最高・最低温度のアラーム設定ができます。(本体内蔵の電子ブザーでお知らせします。)

● 本体・センサプローブ完全互換

サーミスタセンサプローブ及び熱電対（K）プローブ共に互換性があります。

警告

SK-1260は防爆仕様構造ではありませんので、引火性ガスを含んだ雰囲気でのご使用は絶対にしないでください。



爆発注意

爆発する恐れがあり
たいへん危険です。

- ご不明な点がありましたらお買い上げ店または弊社にご相談ください。

目次

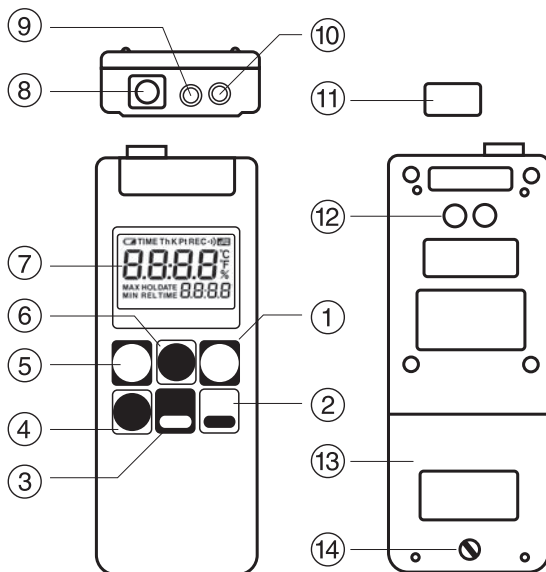
一般的な温度測定の方法

データ記録温度測定の方法

記録データのプリンタ印字方法

本器とプリンタ接続	22
プリントアウトの方法	22
マニュアルおよび	
オート記録の印字例	23
本器のエラー表示について ..	24
オプションセンサのご紹介 ..	25
その他のオプション	26
仕様	27
保証規定・保証書	29
インターネットホームページ	30

各部の名称とはたらき



① POWER キー

- ・本キーを押して、本器の電源を ON にするとピーというブザー音が鳴り電源が入ります。電源が ON の状態でもう一度このキーを押すと OFF になります。
- ・本器の電源が ON の状態で以下の操作を行うと、各種設定ができます。
- ・HOLD/REL キーと同時に押すことで「記録インターバル」が設定できます。(P.16 参照)
- ・TIME キーと同時に押す事で「時計設定モード」になります。(P.15 参照)

- ・MAX/MIN キーと同時に押す事で「管理ナンバー設定モード」になります。(P.17 参照)
- ・SET/CLEAR キーを同時に押し、次に SET/CLEAR キーのみをもう一度押すと、記録ファイルがクリアされます。

② HOLD/REL キー

- ・通常測定モード時に本キーを押すと温度指示値を一時的にホールド（固定）させることができます。
- ・ホールドモード時にもう一度本キーを押すと REL（変化量）測定モードに変わります。
- ・REL（変化量）測定モード時に

本キーを押すと通常測定モードに戻ります。

- ・表示が HOLD された状態で SET/CLEAR キーを押すと、現在温度が HOLD 値に更新されます。

③ MAX/MIN キー

- ・通常測定モード時に本キーを押すと、最高・最低記録の値が表示されます。(P.13 参照)
- ・最高または最低温度の表示状態で SET/CLEAR キーを押すと、それらの表示温度が現在温度に更新されます。
- ・通常測定モード時に SET/CLEAR キーと MAX/MIN キーを同時に押すことで最高・最低温度のアラーム設定ができます。(P.13 参照)

④ SET/CLEAR キー

- ・主に各種設定操作の決定をするときに使用します。

⑤ TIME キー

- ・通常測定モードの時、本キーを押すと時間が表示されます。
- ・時刻表示の状態で、もう一度本キーを押すと通常温度測定に戻ります。
- ・本器の電源が ON の状態のとき POWER キーと同時に押すことで「時計設定モード」になります。
- ・通常測定モード時に本キーを長押しすると「収録データ表示

モード」へ移行します。

(P.15 参照)

⑥ REC/PRINT キー

- ・通常測定モード時に本キーを押すと、マニュアル記録モードになります。(P.17 参照)
- ・通常測定モード時に本キーと MAX/MIN キーを同時に押すことでオート記録モードになります。(P.19 参照)
- ・通常測定モード時に本キーを長押しするか、または本キーと POWER キーを同時に押すことで記録されたデータを専用のプリンタに印字出力することができます。(P.22 参照)

⑦ 液晶表示部

- ・測定温度値、各種設定情報およびキャラクタを表示します。

⑧ センサコネクタ

- ・専用のサーミスタセンサプローブまたは専用の熱電対 (K) センサプローブを接続します。

⑨ プリンタコネクタ

- ・専用のプリンタ接続ケーブルを接続します。

⑩ AC アダプタジャック

- ・専用の AC アダプタプラグを接続します。

⑪ ジャック防水カバー

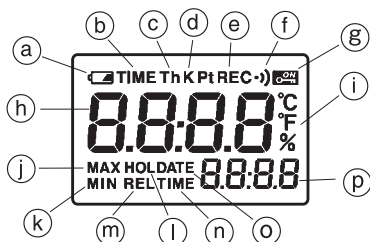
- ・防水性「保護等級 IPX4」を必要とする環境で温度測定を行う場合、プリンタコネクタ部及び AC アダプタジャック部に装着

してください。

- ⑫ ジャック防水カバーホルルド部
・専用のプリンタケーブルを接続
するときまたは AC アダプタを
ご使用するときにはジャック防水

カバーを外して、ホルルド部に
カバーを取り付けてください。

- ⑬ 電池蓋
⑭ 電池蓋固定ねじ



- ① 電池容量が少なくなると点灯し限
界に達すると点滅します。
② 時計設定時に点灯します。
③ サーマスタセンサプローブを接続
した時点灯します。
④ 熱電対 (K) センサプローブを接続
した時点灯します。
⑤ データの記録中点灯します。
⑥ 最高最低温度の監視時に設定値を
超えると点灯します。

- ⑦ オートパワーオフを解除している
ときに点灯します。
⑧ メイン数値表示部で温度測定値な
どを表示します。
⑨ 測定単位キャラクタ
⑩ 最高測定値の表示中および最高温
度設定する際に点灯します。
⑪ 最低測定値の表示中および最低温
度設定する際に点灯します。
⑫ 測定値のホールド中に点灯します。
⑬ HOLD での変化量を表示中に点灯
します。
⑭ 記録されたデータの時間を確認す
るときに点灯します。
⑮ 日付設定時に点灯します。
⑯ サブ7セグメント LCD

使用上の注意

本器を正しくご使用いただくために、以下のことを必ず守ってください。

- 体温計としては使用できません。
- 本器は精密にできていますので落下させるなど強い衝撃を与えないでください。
- 分解、改造しますと故障の原因となりますので絶対にしないでください。
- 水中でのご使用はしないでください。
- 直射日光の当たる場所や熱器具の近くでのご使用はしないでください。ケースの変形や故障の原因となります。
- 電氣的ノイズが発生する環境でご使用しますと、表示が不安定になったり、誤差が大きくなる場合があります。
- センサコードを無理に引っ張ったり、曲げたり、束ねたりしないでください。また、重い物をのせたり、加熱や傷つけ加工などをしますとコードが損傷することがあります。
- 長期間使用しない場合は、必ず乾電池を本体から取り外してください。入れたままにしておきますと乾電池から液漏れが発生する場合があります故障の原因となります。
- 本器をアルコール、シンナー、その他溶剤で洗ったり、ふいたりしないでください。また、水洗いもしないでください。汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯を含ませたタオルなどを使い、よくしぼってからふいてください。
- 本センサは防水型デジタル温度計「SK-1260」の専用センサです。他の温度計やパソコン等への接続は絶対に行わないでください。
- 本体を固定しているネジ（6カ所）はゆるめたり、増し締めをしないでください。防水性が損なわれることになります。

- 温度の測定範囲をお守りください。測定範囲外でのご使用は故障・破損の原因となります。高い温度を測定する場合には、やけどにご注意ください。また高い温度の測定終了後はセンサのステンレスパイプ部分が熱くなっていますので、十分に温度が下がってから保管するようにしてください。先トガリ型センサの先端部は測定物に突きさしやすいようになっています。先端部で思わぬけがをする恐れがありますので、取扱いには充分ご注意ください。

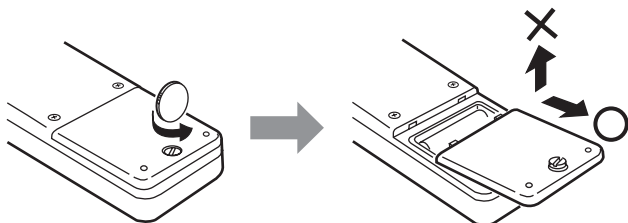
◎ 修理、校正はお買い上げ店、または弊社へお申し付けください。

保管の方法

- ・ 自動車内などに放置すると、真夏の炎天下では極度の高温になり、本器が故障する場合があります。そのような場所には放置しないでください。

乾電池の入れ方

- 1) 本体裏面の電池蓋下のネジ頭部をマイナスドライバーまたはコイン等で反時計方向に回してゆるめはずします。



電池蓋の両サイドを手で持って下方方向に引き出して下さい。

注意：乾電池を交換する場合は4本とも同じ種類のもので、すべて新しいものをご使用ください。

- 2) 乾電池収納部の表示にしたがって、乾電池の向き $\oplus$ $\ominus$ を間違えないように単4形乾電池を4本セットしてください。
- 3) 電池蓋を開けたときと逆の手順で電池蓋を閉め、ネジで固定してください。

注意：電池蓋を開けたとき、黒い防水ゴムがはずれることがあります。その場合は、本体側の溝に防水ゴムを入れてください。電池蓋はしっかり取付けてください。取付けが不十分ですと防水性が損なわれ、水などが浸入して故障の原因となります。

注意：黒い防水ゴム部に水滴が付着した場合は必ず水滴を除去してから蓋をしてください。

- 4) 電池消耗警告表示  (ローバッテリーマーク)

電池容量が少なくなると点灯します。

- ①正 常 状 態：電池マークは表示されません
- ②残 量 減 少：電池マークが点灯します(電池消耗予告)
- ③電池交換警告：電池マークが点滅します(電池寿命限界状態)

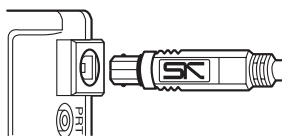
- 5) 電池交換時は必ず POWER キーをOFF にしてから、取り替えてください。

注意：POWER キーを OFF にしないで電池を交換しますと、すべての記録データや設定がクリアされます。

また、乾電池を取り外した状態を 1 分間以上継続すると記録データ等の保持が無効になることがありますので、電池の交換はすみやかに行ってください。

センサプローブの接続

センサプローブのプラグを本体コネクタソケットの穴に差し込み、クリック感触があるまで、しっかり奥まで挿入してください。

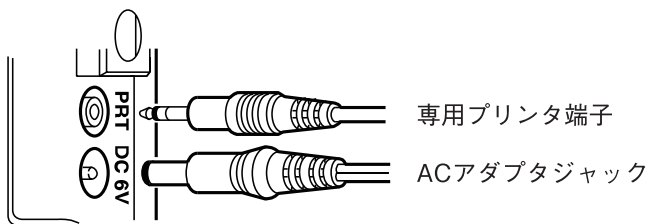


注意：左図のように SK マークを本体のディスプレイ及び操作面側に合わせ、最後までしっかりと差し込んでください。取付けが不十分ですと防水性を損ない、故障の原因となります。

⚠ 注意

- ※このセンサプローブは USB 対応製品ではありません。センサプラグをパソコン周辺機器に絶対に差し込まないでください。
- ※必ず電源 OFF 状態でセンサプローブの抜き差しを行ってください。電源 ON 状態でセンサプローブを抜き差ししますと、故障の原因となります。

プリンタ端子、ACアダプタジャックの接続



注意：使用しないときは、必ず防水カバーを取付けてください。

操作の流れ

- 本器を有効にご使用いただくために使用方法を3つに大別し操作の流れを説明します。

(1) 一般的な温度測定

電池収納部に電池を入れます

(P.6 参照)

センサを本体に接続します

(P.7 参照)

POWER キーを押し電源をいれます

(P.11 参照)

温度測定が可能です

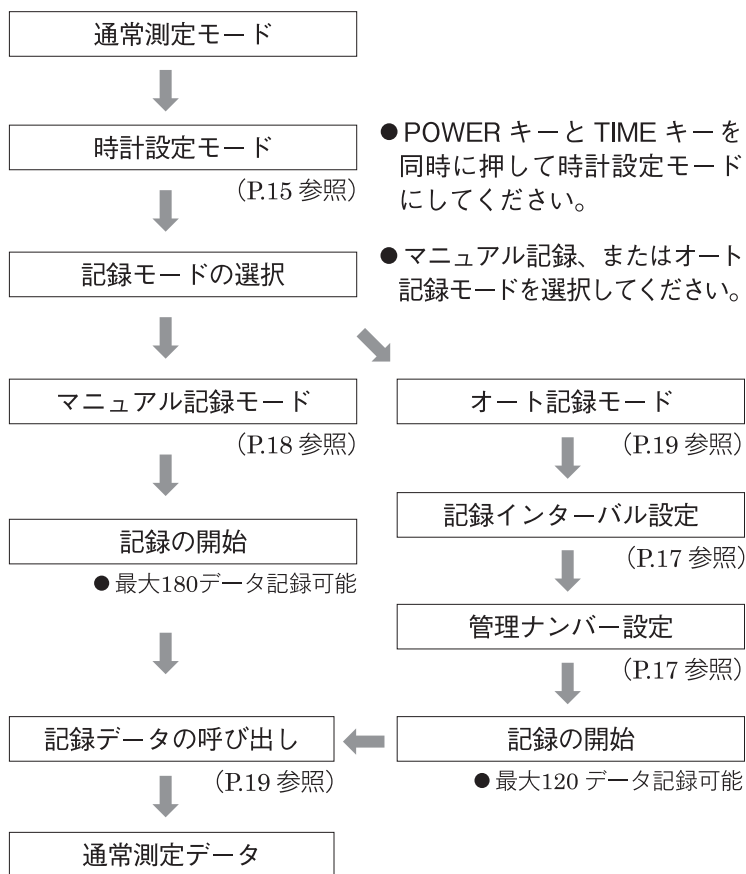
(P.11 参照)

HOLD/REL・MAX/MIN 機能

(P.12,13 参照)

- 単4形乾電池4本またはACアダプタ（オプション）を使用
- 熱電対（K）センサの場合は約10分間程度、測定環境の温度になじませてください。
- 1秒間以上押してください。通常測定モードで起動されます。
- 通常測定モードで、測定温度が表示されます。
- 必要に応じて測定温度範囲内で操作を行ってください。

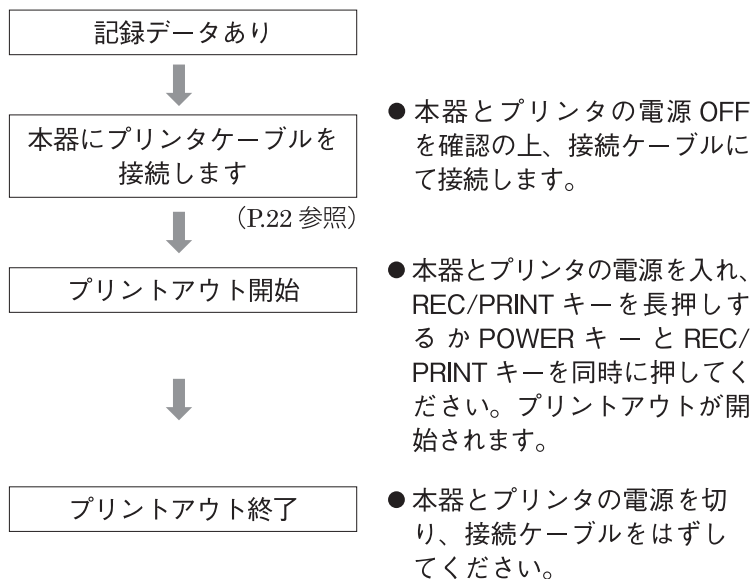
(2) データ記録温度測定（マニュアル記録モード・オート記録モード）
記録データは本器表示部にて再表示・確認することができます



※再度記録モードにするときは、記録されたデータを消去しなければなりません。POWER キーと SET/CLEAR キーを同時に押して、つぎに SET/CLEAR キーのみ押してください。記録データが消去されます。

(3) 記録データのプリンタ印字

記録データを専用プリンタ（オプション）に印字出力します。



※再度記録モードにするときは、記録されたデータを消去しなければなりません。POWER キーと SET/CLEAR キーを同時に押すと、“Fclr”が表示されます。その状態で次に SET/CLEAR キーのみ押してください。

記録データが消去されます。

一般的な温度測定の方法

温度測定の方法

- 1) 本器とセンサプローブを接続してください。
 - 2) POWER キーを1秒程度押しますと、ブザーとともに表示部に全表示テストパターンが現れ、その後に管理ナンバーと記録データ数が約2秒間表示されます。その後現在温度測定値が表示され、通常測定モードになります。
- 30分間キー操作がないと、オートパワーオフ機能が作動し自動的に電源が切れます。
- また、電源投入時に POWER キーを3秒以上続けて押すことにより、オートパワーオフ機能が解除された状態でONになり通常測定モードとなります。その状態でオートパワーオフがはたきませんので、消し忘れによる電池消耗にご注意ください。
- ※この状態のとき、液晶表示部の右上に  のアイコンが表示されます。

注意

- ※高い温度を測定する場合は、やけどにご注意ください。
- ※電源 ON の状態ではセンサプローブは抜かないでください。

- 3) 差し込みセンサで厳密な温度測定を行う場合は、気体・液体・半固体を問わずセンサ保護管の先端から保護管の直径のおよそ15倍の長さ、すなわち保護管径が $\phi 2\text{mm}$ の場合、約30mm以上測定対象物に挿入してください。これは外気（保護管周辺）の温度影響を受けにくくするためです。
- 4) 再度 POWER キーを1秒以上押しますと、表示が消え本器の電源が切れます。

- 測定中、温度変化が激しい場合など、HOLD キーを押すことにより、メインの数値表示部の表示が固定され測定値の読みとりが容易になります。このとき、サブの数値表示部には現在の温度測定値が表示されていますので、必要な温度データをホールドしながら、現在の温度変化がわかります。HOLD 状態を解除するには TIME キーを押します。
- HOLD キーをもう一度押すと REL 機能となり、固定した値からの変化量がメインの数値表示部に表示されます。温度が -199.9°C 以下の場合は “Er:Lo” 表示になります。この間、サブの数値表示部にはリアルタイム測定値が表示されます。測定値が変化するたびに、固定した値からの変化量をメインの数値表示部に表示されます。
- 再度 HOLD キーを押すと、通常測定モードに戻ります。

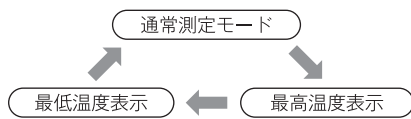
※HOLD および現在温度（サブ7セグメント）表示の解除

HOLD 表示のとき、SET/CLEAR キーと HOLD/REL キーを同時に押すか、または REC/PRINT キーを押すと HOLD 表示および現在温度（サブ7セグメント）表示が消えます。解除する場合は、HOLD/REL キーを押しますと解除されると共に REL 表示となり、もう一度 HOLD/REL キーを押すと通常測定モードになります。REL 機能時に SET/CLEAR キーを押すと、その時点の温度が基準温度となり、そこからの変化量がメイン表示部に表示されます。REL 機能時に基準温度を確認するには MIN/MAX キーを押します。すると HOLD 表示画面に戻り、基準温度を確認することができます。

その状態で HOLD/REL キーを押すと変化量表示モードに戻ります。変化量表示状態で、もう一度 HOLD/REL キーを押すと通常温度計測モードに復帰します。

●最高温度・最低温度表示

- 1) 通常測定モード時に MAX/MIN キーを一回押し、つぎに SET/CLEAR キーを押すと最高・最低温度記録がスタートします。
- 2) つぎに MAX/MIN キーを押すことにより、最高・最低温度記録スタート設定時点からの最低温度記録値が表示されます。
- 3) 再度、MAX/MIN キーを押すことにより、1 度、通常測定モードに戻ります。再度、MAX/MIN キーを押すことにより、最高・最低温度記録スタート設定時点からの最高温度記録値が表示されます。
- 4) 以降、右図のような順で測定ができます。
- 5) SET/CLEAR キーを押すことにより、本器に記録されている最高温度・最低温度値がクリアされます。本器は記録データがクリアされた時点からの最高温度・最低温度を記録スタートします。



※最高温度・最低温度表示中、サブ7セグメントには、現在温度が表示されます。

●最高温度・最低温度のアラーム設定

- 1) 通常測定モード時に SET/CLEAR キーと MAX/MIN キーを同時に押すと最高温度のアラーム設定ができ、設定温度がサブ7セグメント LCD に表示されます。ここで REC/PRINT キーを押すと同様に最低温度のアラーム設定ができます。さらに REC/PRINT キーを押すと最高・最低温度のアラーム設定ができます。アラーム温度の設定は UP キー、DOWN キーにて行ってください。最高・最低温度のアラーム設定時には最高温度と最低温度の設定温度が適用されます。
- 2) アラーム設定の温度に到達すると、MAX または MIN マークが点滅します。
- 3) SET/CLEAR キーを押すことにより、**・**マークが点灯してブザー音が有効となり、設定温度到達時にブザー音でもお知らせします。ブザー音を解除するには SET/CLEAR キーをもう一度押してください。**・**マークが消灯します。
- 4) 通常測定モードに戻すには TIME キーを押してください。

オートパワーオフ機能

- 本器はキー操作を約30分間行わなかった場合、電源が自動的に切れます。

電源の切り忘れによる電池容量の消耗を防ぎます。

- オートパワーオフ機能が作動する場合は、右表のようになっております。

通常温度測定	○
HOLD 機能	×
MAX/MIN 機能	×
マニュアル記録	○
オート記録	×※

○印—作動する

×印—作動しない

※オート記録中は、インターバル設定によっては表示が消える場合があります。120 データ終了後はオートパワーオフが作動します。

- オートパワーオフの解除手順

- 1) 電源投入時に POWER キーを 3 秒間以上押し続けて起動するとオートパワーオフ機能が解除され、右図のように解除を示す

 マークが表示されます。



- ※オートパワーオフ機能は通常測定モード時に SET/CLEAR キー、TIME キーと POWER キーの 3 つを同時に押すことで有効/無効を切り替えることができます。

データ記録温度測定の方法

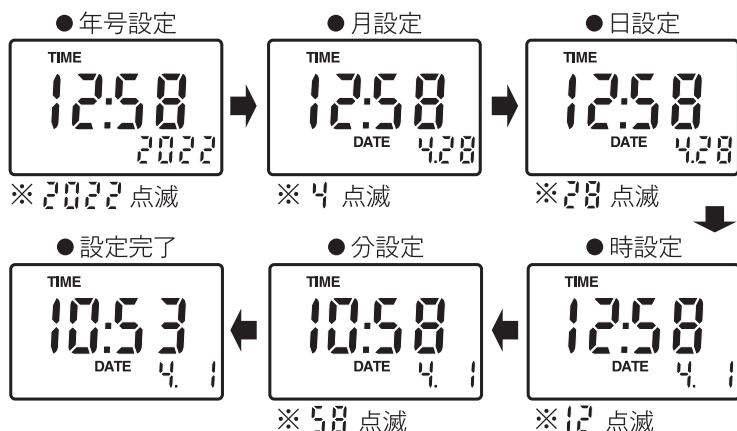
各種設定モードについて

設定モードに入ると変更可能な数値が点滅します。数字はUPキーまたはDOWNキーにて変更することができます。次の設定モードに進むか、終了するときはSET/CLEARキーを押してください。通常測定モードに戻ります。

時計設定

本器の電源がONのときにPOWERキーとTIMEキーを同時に押すことにより時計の設定が以下の手順でできます。項目ごとに設定後SET/CLEARキーを押して、次に進んでください。

例: 2022年4月1日10時53分設定



時計設定はマニュアル記録モードおよびオート記録モードどちらの使用時においても必要です。

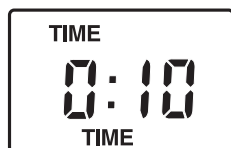
注意：時計設定をしないままマニュアル記録、オート記録を行った場合、初期設定の年、月、日、時計の値が記録データに記録されます。

記録インターバル設定

本器の電源が ON のときに POWER キーと HOLD/REL キーを同時に押すことにより以下の図のように記録インターバルの設定ができます。

※記録インターバル設定はオート記録モード使用時に必要です。

- 出荷時、記録インターバルは 1 分に設定されています。10 分に設定したい場合、UP キーを押して、右図のように設定します。SET/CLEAR キーを押すと通常測定モードに戻ります。また記録インターバル設定中に TIME キーと REC/PRINT キーを同時に押すことにより、収録開始モードの切替ができます。右図のように下部に TIME マークが点灯すると正時分開始モードになります。もう一度 TIME キーと REC/PRINT キーを同時に押すと下部の TIME マークが消灯し通常の開始モードに戻ります



通常開始モードの場合、記録インターバルを 1 時間に設定し現在時刻が 13 時 07 分の時、記録は 13 時 08 分から開始されます。
正時分開始モードの場合、記録インターバルを 1 時間に設定し現在時刻が 13 時 07 分の時、記録は次の正 1 時間である 14 時 00 分から開始されます。(下表参照)

記 録 インターバル (時：分)	0:01									
	0:02	0:05	0:10	0:30	1:00	2:00	4:00	6:00	12:00	24:00
	0:03									
記録	通常	記録開始時点からの計測								
開始	正時分開始	正 1 分	正 5 分	正 10 分	正 1 時間					

管理ナンバー設定

管理ナンバーはマニュアル・オート記録モード時に一緒に記録されるので測定データを管理するのに便利です。管理ナンバーを設定するには通常測定モード時に POWER キーと MAX/MIN キーを同時に押します。ナンバーは 0～99 まで、2 種類の設定ができます。

- 例 〇 ―― 佐藤担当（誰が）
 99 ―― 実験室の保温箱（何を管理）
- 上記は、一つの例です。お客様のお考えでご利用ください。



- 管理ナンバーを表示した状態で SET/CLEAR キーを押すと左側のナンバーが点滅するので UP または DOWN キーにて変更します。変更後 SET/CLEAR キーを押すと右側のナンバーが点滅しますので同様に変更します。最後に SET/CLEAR キーを押すと管理ナンバーを確定します。管理ナンバー設定中に TIME キーを押すと、管理ナンバーの設定はキャンセルされます。

注意

※各種設定モードに入る場合、POWER キーとその他必要なキーを同時に押す必要があります。POWER キーのみを先に押した場合、本体の電源が切れてしまいますのでご注意ください。

マニュアル記録

本器の電源がON のときにRECキーを押すと現在の測定値が記録されます。RECキーを押した瞬間、約0.5秒間REC表示とサブ7セグメントにファイルナンバーが表示されます。ファイルナンバーが180件を超えたときは、REC キーを押して、サブ7セグメントにFULL と表示されると共にピーというブザー音が鳴ります。以降の測定値は記録されません。

記録データ操作中、電源をOFFにしても記録ファイルは保持され、もう一度電源ONで、記録ファイルは継続されます。

● 記録データの呼び出し

本器に記録データがある場合、TIME キーを1秒以上押すと、サブ表示部に記録されたファイルナンバー“F1”とREC マークが表示され、メイン表示部に記録温度値を表示します。

その状態でSET/CLEAR キーを押すとその測定時刻が表示され、もう一度、SET/CLEAR キーを押すと測定日付が表示されます。記録された温度はUP/DOWN キーを押すことで記録した順に表示が切り替わります。UP またはDOWN キーを押し続けると記録された順番に早送りできます。

通常温度測定モードに戻る場合はTIME キーを押します。

● 記録データの削除

通常測定または記録データを表示した状態で、POWER キーとSET/CLEARキーを同時に押すとサブ表示部に“Fclr”が表示され、次にSET/CLEAR キーを押すと記録データが全て削除されます。TIMEキーを押すと、記録データの削除操作はキャンセルされます。オート記録モードの場合も同じです。

注意：オート記録モードのデータが存在する場合、そのままマニュアル記録モードへは移行できません。マニュアル記録を行う場合は上記の手順にてオート記録データを削除してください。

オート記録

通常測定モード時にRECキーとMAX/MINキーを同時に押すと設定された記録インターバルで測定値の記録がスタートします。記録が開始されるとRECが表示され、サブ7セグメントにファイルナンバー“F??”とサンプリングデータカウンタ“d??”が交互に表示されます。ファイルナンバーが120件に達すると、REC/PRINTキーを押してもサブ表示部に“FULL”と表示されると共にピーというブザー音が鳴り、以降の測定値は記録されません。オート記録中にREC/PRINTキーを押して記録を停止すると未記録の残留データがあればそれを記録してから通常温度測定モードに戻ります。また、SET/CLEARキーまたはTIMEキーで記録を停止すると未記録の残留データは破棄し、通常温度測定モードに戻ります。

● 記録データの呼び出し

本器に記録データがある場合、TIMEキーを1秒以上押すと、サブ表示部に記録されたファイルナンバー“F1”が表示され、メイン表示部にその時刻の測定値が表示されます。その状態でSET/CLEARキーを押すとその測定時刻がサブ表示部に表示され、もう一度、SET/CLEARキーを押すと計測日付が表示されます。またREC/PRINTキーを押すとその時刻の測定値、最高温度値、最低温度値の順で表示が切り替わります。記録された温度はUPまたはDOWNキーを押すことで記録した順番に表示が切り替わります。UPまたはDOWNキーを押し続けると記録された順番に早送りできます。

通常温度測定モードに戻る場合はTIMEキーを押します。

注意：マニュアル記録モードのデータが存在する場合、そのままオート記録モードへは移行できません。オート記録を行う場合は前項の手順にてマニュアル記録データを削除してください。

※記録インターバル設定についてはP.16に記載されていますが、その設定した後の経過表示が、次の表のようになります。

記 録 インターバル (時：分)	0:01									
	0:02	0:05	0:10	0:30	1:00	2:00	4:00	6:00	12:00	24:00
	0:03									
記 録	通 常	記録開始時点からの計測								
開 始	正時分開始	正 1 分	正 5 分	正 10 分	正 1 時間					
表示間隔	連続表示			30 秒毎	1 分毎	2 分毎	4 分毎	6 分毎	12 分毎	24 分毎
表示時間	連続表示			約 13 秒間						

● RECをスタートさせた時間に対してパワーオフの時間が経過した後、液晶表示がいったん消えます。

(但し連続表示は除外します) その後はインターバル設定により表示、オン・オフを繰り返して120データまでデータを取り続けます。インターバルの設定時間が長くなるほど表示が消えている時間も長くなっていますが、表示不良ではありません。

注意：オート記録の終了時には下記事項をご確認の上取り扱ってください。

- 1：オート記録を終了する際にはTIME またはREC/PRINT キーなどを押して記録を停止させてからPOWER キーを押して本体の電源をOFFにしてください。
- 2：AC アダプタを使用している場合は、本体の電源がON の状態でAC100V コンセント側を抜くと電池の有無に関わらずそれまで記録されたデータが消去されます。

AC アダプタを外した後もデータを保持したい場合は、電池をセットした上で本体と接続されているプラグ側を先に抜いてください。

- オート記録をご使用中に電池が少なくなったり、また何らかの事情で電源を切り替える場合、下記の内容に注意してください。
 - (1) 電池からACアダプタに切替えるとき。
 - (2) ACアダプタから電池に切替えるとき。
 - (3) 電池を交換するとき。

上記(1)～(3)のいずれかにおいても電源を切替える場合は、必ず本体操作ボタンのPOWERキーをOFFの状態にしてから行ってください。

(約50秒以内) その後POWERキーをON にすればデータは消えないで継続して作動しています。

もし、POWERキーをOFF にしないで交換、切替え操作を行いますと、オート記録が停止などの誤作動、または誤表示することがありますので絶対にしないでください。

記録データのプリンタ印字方法

本器とプリンタの接続

- 1) 本器の電源とプリンタの電源が切れていることを確認しプリンタ接続ケーブルをプリンタと本器プリンタ接続端子に接続してください。(P.8参照)
- 2) プリンタ付属の説明書をよくお読みください。
プリンタは、専用プリンタ(オプション)となります。
- 3) お求めは、お買い上げ店または弊社サービスネットワークにおたずねください。

プリントアウトの方法

- 1) プリンタの電源がONになっている事を確認してください。
- 2) 本器の電源がON のときにPOWERキーとRECキーを同時に押すと、“Prn”が表示されプリンタが印字を開始します。データが無い場合はブザーが鳴るだけで印字は行われません。
※また、同様にREC キーを3秒以上長押しすることで印字を開始します。
- 3) 印字データは第1 ファイルから最終ファイルまで出力します。
※SET/CLEAR またはTIME キーを押すとプリンタの印字は停止します。
- 4) プリント後も、本体にデータは残っています。

マニュアル、オート記録印字例

● マニュアル記録印字例

オートソケイデータ				プリント日時	2021年9月23日
				センサー:K1, カンリコード	No.00-00(°C)
Rec	月 日	時 分	オート		
001	9/23	11:52	25.9		
002	9/23	11:58	25.0		
003	9/23	12:35	25.7		
004	9/23	12:37	25.1		
005	9/23	12:45	25.1		
006	9/23	12:46	25.0		
007	9/23	12:47	24.5		
008	9/23	12:48	25.5		
009	9/23	12:58	26.9		

注意：文字の書体及び大きさは、実物と異なります。

● オート記録印字例（記録インターバル2分の場合）

オートソケイデータ				プリント日時	2021年9月23日
				センサー:K1, カンリコード	No.00-00(°C)
Rec	月 日	時 分	体温	サイコ	サイイ
001	9/22	11:31	25.9	25.9	25.0
002	9/22	11:33	25.0	33.1	25.0
003	9/22	11:35	25.7	25.7	25.1
004	9/22	11:37	25.1	25.1	25.0
005	9/22	11:39	25.1	25.1	25.0
006	9/22	11:41	25.0	39.9	20.3
007	9/22	11:43	24.5	72.5	24.5
008	9/22	11:45	25.5	87.6	25.5
009	9/22	11:47	26.9	32.4	26.8

注意：文字の書体及び大きさは、実物と異なります。

本器のエラー表示について

●エラー表示はメイン表示部に表示されます。

エラー表示	原因	対策
Er : Lo	測定温度が測定範囲の下限を超えている。	すみやかにプローブを測定対象から取り外し、測定範囲内に戻してください。
Er : Hi	測定温度が測定範囲の上限を超えている	
----	プローブが接続されていない。	プローブを正しく接続してください。
Err	プローブの接続が悪いかプローブ内部で断線している。	本器の電源を切ってプローブを接続しなおしてください。断線と考えられる場合は使用を中止してください。
	プローブ内部でショートしている。	使用を中止してください。

オプションセンサのご紹介

- センサには下記の種類のものが用意されています。使用目的に合わせセンサをお選びください。その他特注センサについても製作いたします。

サーミスタ コード1.1m付(SK-S102Tを除く)

- SK-S100T 標準センサ
液体、粘性体、半固体用
-30 ~ 199.9℃ φ2×100mm
- SK-S101T 食品、ゴム質用
先トガリ、
液体、粘性体、半固体用
-30 ~ 199.9℃ φ3×100mm
- SK-S101WT 先トガリセンサ
(食品用防水型、低温)
-30 ~ 199.9℃ φ3×120mm
- SK-S102T 耐圧、水温測定用
コード10m付(醸造、水産)
-30 ~ 100℃ φ17×123mm
- SK-S103T 直腸温度測定用
30.0 ~ 50.0℃ φ3×110mm
- SK-S201T 空気測定用
(オフィス、倉庫)
-30 ~ 150.0℃
φ5×21mm+φ2×80mm(先端部)

熱電対(K) コード1.1m付(SK-S105K、SK-S110K、SK-S304Kを除く)

※クラス1表記以外のものはクラス2です。

- SK-S100K 標準センサ
液体、粘性体、半固体用
-100 ~ 300℃ φ2.3×150mm
(クラス1)
- SK-S100WK 食品用防水型
センサ(低温)
-100 ~ 300℃ φ2.3×150mm
(クラス1)
- SK-S101K 一般測定用
液体、粘性体、半固体用
-100 ~ 700℃ φ3.2×250mm
(クラス1)
- SK-S102K 中・高温用センサ
粘性体、半固体用
0 ~ 800℃ φ4.8×500mm
(クラス1)
- SK-S103K アスファルト用先トガリ
(オールステンレス、耐熱コード付)
0 ~ 300℃ φ5×250mm
- SK-S104K 高感度測定用
液体、粘性体
-100 ~ 300℃ φ1×1000mm
- SK-S105K デープレックス
ワイヤーセンサステンシルド
コード0.3m付
-100 ~ 300℃ φ0.65×10m
- SK-S106K アスファルト用
(取手樹脂)先トガリ
0 ~ 300℃ φ5×250mm
- SK-S107K 高温用センサ
0 ~ 1000℃ φ4.8×1000mm
(クラス1)(材質:インコネル)

- SK-S108K 堆肥用
0 ~ 300℃ φ8×900mm
- SK-S109K アスファルト用
0 ~ 300℃ φ5×250mm
- SK-S110K 極細投込
0 ~ 200℃ φ2.0×85mm
先トガリ コード3m 付
- SK-S301K 静止表面用 (中温)
0 ~ 600℃ 先端部 φ25×40mm
- SK-S302K 静止表面用
(ロングサイズ・中温)
0 ~ 600℃ 先端部 φ17×21mm
- SK-S303K 静止表面用 L 型
(中高温)
0 ~ 800℃ 先端部 φ10×12mm
- SK-S304K 静止表面貼付用
0 ~ 300℃ 17×14×t0.6
耐熱コード 3m 付
- SK-S305K 静止表面用
(90角度可変、中温)
-30 ~ 500℃ 先端部 φ17×36mm
- SK-S306K 静止表面用 (低温)
-30 ~ 250℃ 先端部 φ10×12mm
- SK-S307K 静止表面用
(一般測定、低温)
-30 ~ 400℃ 先端部 φ17×25mm
- SK-S308K 静止表面用
(L 型センサ、中温)
-30 ~ 600℃ 先端部 φ17×30mm
- SK-S401K 曲面表面用 (パイプ等)
0 ~ 250℃ 先端部 30×35×60mm
- SK-S402K 回転表面用 (ローラ型)
0 ~ 300℃ 先端部 25×50×25mm
- SK-S403K 静止表面用
(マグネット型)
0 ~ 200℃ 先端部 φ30×12mm

その他のオプション

- SK-1250MC Ⅲシリーズ・SK-1260 用 AC アダプタ
- 専用プリンタ (AC アダプタ付)

仕 様

製品名	防水型デジタル温度計	
型式	SK-1260	
製品番号	No. 8080 - 05(センサツキ)	
測定範囲	サーミスタ	-30.0～199.9℃
	熱電対(K)	-99.9～1250℃
分解能	サーミスタ	-30.0～199.9℃
	熱電対(K)	-99.9～199.9℃ :0.1℃ 200～1250℃ : 1℃
測定精度	サーミスタ ● 本体精度 ± 0.2℃ ● センサ精度 ±(0.1%rdg + 0.2℃) /0.0 ～ 150.0℃ ±(0.2% rdg + 0.4℃) / -30.0 ～ -0.1、150.1 ～ 199.9℃	
	熱電対(K) ● 本体精度 ・ 0.0 ～ 199.9℃ ・ -99.9 ～ -0.1℃ ・ 200 ～ 1250℃ ± (0.1% rdg+0.3℃) ± 0.5℃ ±(0.2% rdg+1℃) ● SK-S100K センサ精度 (-100 ～ 300℃) クラス1 (JIS) ± 1.5℃ / -40℃以上 375℃未満 ± 0.004 ・ t / 375℃以上 1000℃未満	
記録件数	マニュアル記録:180件 オート記録:120件	
接続可能センサ	サーミスタ、熱電対(K)	
防水性※	JIS C 0920「保護等級IPX4」に準拠	
電源	単4形乾電池×4本・ACアダプタ(オプション)	
電池寿命	マンガン:連続180時間 アルカリ:連続280時間	
材質	本体	ABS樹脂
	標準センサ プローブ	感温部:ステンレス(SUS 316) 握手部:POM
外形寸法	H175×W66×D25mm	
本体質量	約0.2kg(電池含む)	
付属品	● 本体ソフトケース ● 標準センサ(SK-S100K) 1本 ● 単4形アルカリ電池(4本) ● 検査合格証 1枚 ● 取扱説明書 1冊 ● お客様製品登録のお願い1枚	

※防水性とはセンサ接続時に依るものです。

仕 様

製品名	防水型デジタル温度計	
型式	SK-1260	
製品番号	No. 8080 - 00(センサナシ)	
測定範囲	サーミスタ	-30.0～199.9℃
	熱電対(K)	-99.9～1250℃
分解能	サーミスタ	-30.0～199.9℃
	熱電対(K)	-99.9～199.9℃ :0.1℃ 200～1250℃ : 1℃
測定精度	サーミスタ ● 本体精度 ± 0.2℃ ● センサ精度 ±(0.1%rdg + 0.2℃) /0.0 ～ 150.0℃ ±(0.2% rdg + 0.4℃) / -30.0 ～ -0.1、150.1 ～ 199.9℃	
	熱電対(K) ● 本体精度 ・ 0.0 ～ 199.9℃ ・ -99.9 ～ -0.1℃ ・ 200 ～ 1250℃ ± (0.1% rdg+0.3℃) ± 0.5℃ ±(0.2% rdg+1℃) ● センサ精度 ※センサ精度は接続するオプションセンサの型番で異なります。	
記録件数	マニュアル記録:180件 オート記録:120件	
接続可能センサ	サーミスタ、熱電対(K)	
防水性※		
電源	単4形乾電池×4本・ACアダプタ(オプション)	
電池寿命	マンガン:連続180時間 アルカリ:連続280時間	
材質	本体	ABS樹脂
	標準センサ プローブ	
外形寸法	H175×W66×D25mm	
本体質量	約0.2kg(電池含む)	
付属品	● 本体ソフトケース ● 単4形アルカリ電池(4本) ● 検査合格証1枚 ● 取扱説明書1冊 ● お客様製品登録のお願い1枚	

※防水性とはセンサ接続時に依るものです。

保証規定

- ①取扱説明書の注意に従った正常な使用状態で故障した場合、お買いあげ後1年間、無償で修理または交換させていただきます。その他の責はご容赦願います。
- ②修理の必要が生じた場合は製品に本証を添えて、お買いあげ店または弊社にご持参またはご送付ください。
- ③保証期間内でも次の場合は有償修理となります。
 - イ. 誤用・乱用および取扱不注意による故障
 - ロ. 火災・地震・水害等の災害による故障
 - ハ. 不当な修理や改造および異常電圧に起因する故障
 - ニ. 使用中に生じた傷等の外観上の変化
 - ホ. 消耗品および付属品の交換
 - ヘ. 本証の提示がない場合および必要事項（お買いあげ日、販売店名等）の記入がない場合
- ④本証は日本国内でのみ有効です。また本証は再発行いたしません。大切に保管してください。

品質保証書

お願い 本保証書はアフターサービスの際必要となります。
お手数でも※印箇所にご記入のうえ本器の最終ご使用者のお手許に保管ください。
※当商品の保証書にご記入された、お客様の個人情報は、商品の修理・交換の商品発送などに使用し、それ以外に使用したり、第三者に提供する事は一切ございません。

品 名 防水型デジタル温度計 型式 SK-1260

※お客様名

※ご住所 TEL ()

●以下につきましては、必ず販売店にて、記入捺印してください。

お買いあげ店名 (印)

ご住所 TEL ()

お買いあげ年月日 年 月 日

SK 株式会社 佐藤計量器製作所

〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町3丁目4番地

TEL 03-3254-8111(代) FAX 03-3254-8119

インターネットホームページ

弊社製品の最新情報は、インターネットホームページでご覧いただけます。

<http://www.sksato.co.jp/>

- 万一製造上の不備がありました場合は新しい商品とお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦願います。

防水型デジタル温度計 SK-1260

真空調理用センサ

取扱説明書

このたびは、防水型デジタル温度計SK-1260用 真空調理用センサ「SK-S111Kシリーズ」をお買い上げいただきありがとうございます。

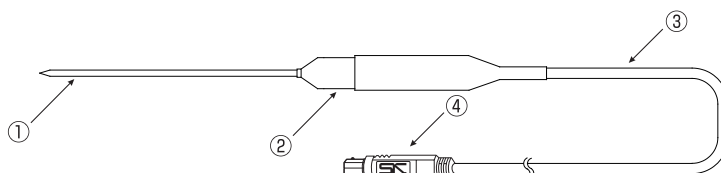
- ◎この製品は、温度をはかるものです。それ以外のご使用はしないでください。
- ◎ご使用前には必ず取扱説明書（本書）をお読みになり、大切に保管してください。

ご使用前に付属品が不足していないか、本器が輸送中に破損していないかご確認ください。
万一付属品が不足していたり、本器や付属品が破損している場合は、お買い上げ店または弊社にご連絡ください。

各部の名称

真空調理用センサ（MODEL：SK-S111K-〇〇）
※「-〇〇」は各種センサの型式

- ①感温部
- ②握り手部（グリップ）
- ③コード
- ④センサコネクタ（プラグ）

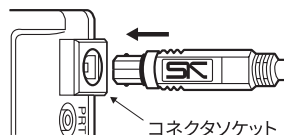


※ご使用用途にあわせて、感温部形状が異なるセンサを用意しています。詳しくは仕様欄をご参照ください。

ご使用方法

■接続のしかた

指示計の電源がOFFの状態です。センサプローブのプラグを指示計コネクタソケットに差し込み、クリック感触があるまで、しっかり奥まで挿入してください。



注意：左図のようにSKマークを指示計のディスプレイおよび操作面に合わせ、最後までしっかりと差し込んでください。取り付けが不十分ですと防水性を損ない、故障の原因となります。

機器の保護のため、センサコネクタの取り付け、取り外しは指示計の電源をOFFにしてからおこなってください。

また、濡れた手、水のかかる場所でセンサコネクタの取り付け、取り外し（着脱）はおこなわないでください。

本センサはUSB対応製品ではありません。センサプローブのプラグをパソコン周辺機器に絶対に差し込まないでください。

センサ取り扱いに関するご注意

- ・感温部の先端は測定物に突き刺ししやすいようにとがり形状になっています。ご使用中やお手入れの際、思わぬけがをするおそれがありますので取り扱いには十分ご注意ください。
- ・センサ感温部を突き刺す際は曲がったり、折れたりしないように十分に注意をしまっすぐ突き刺してください。
- ・冷凍食品など固いものに無理に突き刺すと感温部が曲がるなど破損の原因となります。
- ・コードは引っ張ったり、曲げたり、ねじったり、束ねたりしますと断線の原因になります。
- ・水没させてのご使用は故障の原因になります。
- ・握り手部のコードを手のひらで押し付けながら測定物に突き刺すと断線の原因になります。
- ・握り手部とコードを束ねてテープなどで固定してのご使用は断線の原因になります。

※取り扱い方法は本書のほか、指示計に付属の取扱説明書もご覧ください。

■ムーステープ（オプション）を利用した温度測定のみ

ムーステープを利用することで真空パックされた食材の漏れをできるだけ抑えながら食材の中心温度を測定することができます。

- ①ムーステープを必要長にカットします。
- ②ムーステープの剥離シートを剥がして、真空パックされた食材にムーステープをしっかりと貼り付けてください。
※貼り付け箇所が濡れていますとムーステープが剥がれる恐れがあります。貼り付け前に必ず水分を拭き取ってください。
※貼り付け箇所にシワがあると空気が漏れる恐れがあります。シワを伸ばした状態で貼り付けてください。
- ③感温部をアルコール消毒したあと、貼り付けたムーステープの中央に本センサを突き刺します。
※食材の中心に感温部の先端が届くように突き刺す長さを調整してください。
- ④突き刺した食材を真空調理用の湯煎機に入れて加熱して、中心温度を測定します。
※ムーステープの耐熱温度は95℃ですが高温になるほど粘着力が弱くなるため、推奨温度は70℃です。
※湯煎機へ入れる際は握り手部が水没しないように注意してください。



注 意

本器を正しくご使用いただくために、以下のことをお守りください。

- ・本センサは防水型デジタル温度計「SK-1260」専用です。ほかの温度計への接続は絶対におこなわないでください。
- ・体温計として使用しないでください。
- ・測定範囲外でのご使用は故障や破損の原因となりますので、測定範囲内でご使用ください。
- ・より正確に温度を測定するためには、センサの周囲温度の影響を受けないよう、測定対象物に対して十分な挿入長を確保してください。（目安として感温部外径の20倍以上）
- ・長時間、高温測定を行う際、握り手部に熱が伝わり、やけどやセンサ故障の原因となるおそれがあります。この場合、測定物との距離を適切に保ってご使用ください。また、高温測定後はセンサが十分に冷めてから保管してください。
- ・高温測定後すぐの低温測定（またはその逆）をするとセンサの劣化が早まります。しばらく常温に放置したあとに測定してください。
- ・センサの感温部先端は測定物に突き刺しやすいたがり形状になっています。ご使用中やお手入れの際、思わぬけがをするおそれがありますので取り扱いには十分ご注意ください。保管する際は乳幼児の手の届かない場所に保管してください。
- ・感温部および握り手部は水道水による丸洗いやアルコールでの拭き取りが可能です。洗浄の際は、必ずセンサを指示計に接続した状態でおこなってください。洗浄後は乾いたウエスなどで水分をよく拭き取ってください。決して乾燥器などには入れないでください。
- ・次亜塩素酸ナトリウムはノロウィルスの消毒に効果的ですが、金属を腐食させます。センサコネクタ部などの金属部へのご使用は避けてください。付着した場合は水拭きし、次亜塩素酸ナトリウムを確実に拭き取ってください。
- ・水中では使用できません。
- ・分解、改造しますと故障の原因となりますので、絶対にしないでください。

修理および校正はお買い上げ店または弊社へお申し付けください。

仕様

製 品 名		真空調理用センサ (30mm)	真空調理用センサ (60mm)	真空調理用センサ (100mm)
型 式		SK-S111K-30	SK-S111K-60	SK-S111K-100
製 品 番 号		8080-44	8080-45	8080-46
温度測定範囲		0～200℃		
測 定 精 度		K熱電対 クラス2		
保護管形状		とがり状		
温度センサ		K熱電対 クラス2		
防 水 性 能		JIS C 0920 IPX5準拠 ※感温部および握り手部		
寸 法	感 温 部	約 Φ1 × 30mm	約 Φ1 × 60mm	約 Φ1 × 100mm
	握り手部	約 Φ8 × 45mm		
	コ ー ド	約 1.1m		
材 質	感 温 部	SUS304		
	握り手部	SUS303		
	コ ー ド	シリコン		
質 量		約 51g		
付 属 品		取扱説明書（本書） 1部		

※仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

※IPX5：あらゆる方向から常温の噴流水を受けても性能に有害な影響がないこと。

※ただし、水中でのご使用はできません。

オプション

ムーステープ(1m) 製品番号:8080-15 材質:ポリエチレン

インターネットホームページ

弊社製品の最新情報は、インターネットホームページでご覧いただけます。

<https://www.sksato.co.jp>

保証規定

- 1) 取扱説明書の注意に従った正常な使用状態で故障した場合、お買いあげ後1年間、無償で修理または交換させていただきます。その他の責はご容赦願います。
- 2) 修理の必要が生じた場合は製品に本証を添えて、お買いあげ店または弊社にご持参またはご送付ください。
- 3) 保証期間内でも次の場合は有償修理になります。
 - イ. 誤用・乱用および取扱不注意による故障
 - ロ. 火災・地震・水害等の災害による故障
 - ハ. 不当な修理や改造および異常電圧に起因する故障
 - ニ. 使用中に生じた傷等の外観上の変化
 - ホ. 消耗品および付属品の交換
 - ヘ. 本証の提示がない場合および必要事項（お買い上げ日、販売店名等）の記入がない場合
- 4) 本証は日本国内でのみ有効です。また、本証は再発行いたしません。大切に保管してください。

品質保証書

お願い 本保証書はアフターサービスの際必要となります。お手数でも※印箇所にご記入の上、本器の最終ご使用者のお手元に保管してください。

※当製品の保証書にご記入されたお客様の個人情報、製品の修理・交換の製品発送などに使用し、それ以外に使用したり、第三者に提供することは一切ございません。

製品名 防水型デジタル温度計SK-1260 真空調理用センサ

※お客様名

※ご住所

※TEL

●以下につきましては、必ず販売店にて記入捺印をお願いいたします。

お買い上げ店名

ご住所

TEL

お買い上げ年月日

年 月 日



株式会社佐藤計量器製作所

101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町 3-4

SK SATO TEL 03-3254-8111 FAX 03-3254-8119